

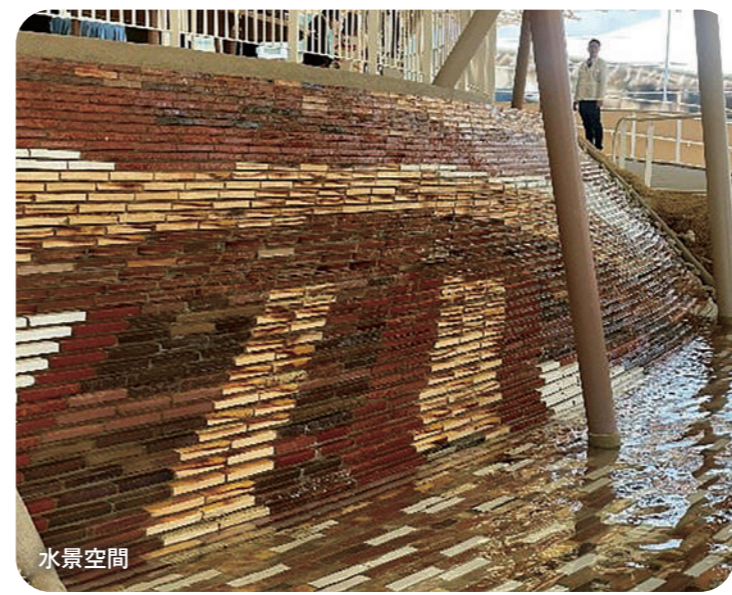
町内小学生がクレイバー制作に挑戦



各産地で制作されたクレイバー

「越前焼」が大阪・関西万博に!

六古窯日本遺産活用協議会では、大阪・関西万博の「シグネチャーパビリオン」のひとつ「いのちの遊び場 クラゲ館」に、サプライヤーとして協賛しています。



水景空間

六古窯の各産地で制作したクレイバー（小型タイル）計3,205本が「いのちの遊び場 クラゲ館」の水景空間に使われており、産地ごとに異なる土の色や質感を感じることが出来ます。中には「越前焼」のロゴの入ったものも！万博へ行くときは、ぜひ探してみてください。

越前焼のクレイバーは、町内の小学生が地元の伝統工芸に親しみ、万博への関心を深めることを目的に、昨年1月に制作しました（延べ200人参加）。制作指導は、豊彩窯の吉田豊一さんと雄貴さんにご協力いただきました。

万博パビリオンの水景空間



六古窯公式YouTubeでは、町内の子どもたちがクレイバーを制作している様子を紹介しています。



▲六古窯公式YouTube

越前町の日本遺産
「越前焼」

越前焼は、昭和23年に陶磁研究者である小山富士夫氏によって「日本六古窯」の一つに数えられ、全国に知られるやきものとなりました。

六古窯とは、越前、瀬戸、常滑、信楽、丹波、備前の6つのやきもの産地の総称です。これらは中世から現在までやきものを作り続けている代表的な産地であり、平成29年に日本遺産に認定されています。

万博ワークショップイベント

7月9日、クラゲ館で、ワークショップイベント「混ぜるとどうなる!? 六古窯の土の魅力を体験しよう」を行いました。展示エリアでは、クレイバーの実物作品や六古窯各産地のやきものを展示しました。来館者のみなさんは、実際にやきものに触れながら、それぞれの産地の特色や魅力を体感していました。また、ワークショップエリアでは、各産地の粘土を使い、自由に「海の生き物」を制作していました。子どもから大人までみなさんが粘土の色や質感、硬さの違いを楽しみながら、夢中になり土と向き合っていました。



六古窯の粘土の違い



クレイバーの実物作品



問合せ先 商工観光課 ☎34-8720

第1回 六古窯のやきもの

日本遺産にも認定されている「日本六古窯」のひとつ「越前焼」。今回初めて6産地(越前・瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前)のやきものを展示販売します。

各産地が継承しているやきものの形や技法に沿った作品から、現代の食生活や美的感性に合わせたデザインなど、さまざまな色や形を表現、発信している現代窯元の作品をご覧ください。

歴史的背景をはじめ、材質や造形、釉薬や装飾など、同じやきものでも産地それぞれ違いますが、「六古窯産地協議会」という組織をつくり、情報交換や産地課題など、古くから伝えられて来た「やきもの」だけではなく、時代と共に変化を取り入れた「やきもの」を、これからの未来に継承、発展を目的として連携・活動しています。

今回の展示販売会がモデルケースとなって他産地でも催され、六古窯はもとより、越前焼の魅力がより一層浸透していくことを期待しています。

会期 令和7年10月18日(土)～11月16日(日)
時間 午前9時～午後5時(最終入館は午後4時30分)
場所 越前陶芸村文化交流会館ロビー

入館料 無料

信楽 Shigaraki	第一回 六古窯のやきもの	越前 Echigo
丹波 Tanba		瀬戸 Seto
備前 Bizen		常滑 Tokoname

出品

瀬戸焼・常滑焼・信楽焼・丹波焼・備前焼

▼越前焼

いいだくにこ	大久保 榮	北島 久美子	中村 豊	ふじの まさ代
入江 紳好	大久保 賢一	北島 重光	波寄窯 圭子	村島 順
入江 英代	大森 正人	近藤 早苗	西浦 武	数内 文子
岩国 英子	大屋 宇一郎	近藤 修康	西浦 朋子	山田 奈穂子
宇野 直	RICCA KITAZAKI	五島 哲	福島 宏治	吉田 雄貴
宇野 ふみ	北島 和幸	武澤 信雄	福嶋 伸彦	

問合せ先 越前陶芸村文化交流会館 ☎32-3200